

南芦屋浜地区地区小学校建設中止についての説明会議事録〔夜の部〕

日 時	平成27年4月6日（月） 19:00 ～ 21:00
場 所	潮芦屋交流センター2階多目室
出 席 者	山中市長，岡本副市長，福岡教育長
司 会	米原企画部長
事 務 局	山城都市建設部参事，三井こども・健康部長，山口管理部長
参加者数	78人（住民：71人 議員：5人 記者：2人）

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

(市長) 改めまして、皆さまこんばんは。

小学校建設中止についての説明会に、夜分にもかかわらずご出席をいただきまして本当にありがとうございます。

かねてより南芦屋浜地区に小学校が必要だということで、昨年から判断し、2月にこの潮芦屋交流センターで、芦屋浜の管理センターで2回、計3回、意見交換会を行いました。その間に地域の皆さまや、また議会からも建設について危惧する、あるいはいろいろなご意見をいただきました。一方で、南芦屋浜地区の皆さまからは建設を要望するお声もいただき、私としても大変苦慮していたところです。

そうした中、3月25日に市議会議員21人のうち14人の有志の皆さまより、行政の進めるこの建設について、白紙撤回を求める申入書が届きました。これを大変重く受けとめまして、過去にたくさんの厳しい判断をしてまいりましたが、特にこの問題については多くの皆さまが期待をしている中で、中止の判断をするのは本当に断腸の思いでした。

建設を待望されている、楽しみにしておられた皆さまのお顔が浮かんで、本当に重く厳しい判断でした。1つの大きな民意が示された以上、建設に向けて話を進めても現実にはできない状況の中で、なお建設に向けて進めていくと、皆さま方に期待を持っていただいたにも関わらず、結

局はできなかつたとなると余計に落胆させてしまうと思い、早期に判断をさせていただきました。例えばコミュニティの問題とか通学路の安全の問題とか、その辺を十分に考えていただく期間も必要かと思って判断をしたところですので、その辺も十分にご理解をいただきたいと思っています。

今日はいろいろご意見もあろうかと思いますが、まちづくりの問題、コミュニティの問題、通学路の問題、建設的なご意見がいただければと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

ご期待をしていただいた皆さま方には本当に申し訳ございませんでした。心からおわび申し上げます。また、ご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(市民) この説明会、昼間にも開催されて、私の身内の者が参加をして内容を聞いたんです。結局いろんな意見が出たところで、市長がただ謝罪をするだけで、余り意味のないものだったと聞いています。

小学校建設に関しては、私個人の意見としては、市の決定であるならば、それはもうしようがないものだと考えてはいます。ただ、小学校建設に関する問題が、いろんな人とも意見交流した中で挙がったのですが、政治のパフォーマンスとして使われているんじゃないかというところが余りにも見えて、それが問題だと考えています。

建設中止を求めた14名の議員の方がおられました。そのうちのある議員の方がビラをまいていて、小学校建設を中止させました。そこに、小学校建設を反対した議員の名前と賛同しなかった議員の名前まで連ねて書いているんです。こんなことを書いているということは、余りにも選挙を意識して、我々は無駄な公共事業をやめさせましたよ、こっちの議員はやめさせてませんよみたいなことを書いている。

こんな号外をまかれて、何なんだと。しかもこのビラは私の住んでいる涼風町にまかれてないんです。というのは、涼風町の住民が見たら、当然これを反対した議員に対して反対するので、反対票、そこには絶対入れないとなるので、それがわかり切っているからこのビラを入れてないんです。

こんなことをしているので、明らかに選挙を意識した動きをしているのは見え見えです。14名の方の議員の意見が芦屋市民の民意であるのであれば、こんなパフォーマンスの材料として、小学校建設をするかどうかという内容を持ってくること自体が、本当に腹立たしくて許されないことだと思っています。

それに対して、その意見が来てすぐに建設中止になったのも腑に落ちないです。建設反対を求めた議員の方が芦屋市民の民意であると言っているのであれば、何でこの場にその議員の方たち全員がまず来られてないのか。その議員の方たちが来て、その民意を我々に伝えて、説得していただければ、我々も納得するんじゃないのですか。市長がどれだけそれを謝罪したところで一体何が変わるのか、それがよくわからない。民意がそもそも伝わってこないの、よくわからない

です。

政治にもいろいろあると思いますので、我々が考えるようなことで簡単にできるとは思えないですが。ただ、政治のパフォーマンスなのかPRかわからないですが、それに子どもたちとかその家族、それぞれが今回のことにはいろいろ巻き込まれているわけです。そんなことはやめてください。

財政がどうか、税金の無駄遣いなのはどうとかいう問題はありますが、本当に市民や子どもたちにとって必要なかどうか、考えているのかどうかという声が全然上がってこないの、そこに対してどうなのかはっきりしてほしいです。

そして、この状況を、恐らく大半の芦屋市民の方は知らないと思います。芦屋市民の方が全くこの事業を知ってない、南芦屋浜地区の人しか知ってない状況で、このまま4月の選挙を迎えるのかというのが一番問題だと思っています。

市長にお願いしたいのは、市として一連の騒動のてんまつを全てまとめていただいて、それぞれ議員の方がどういうことをやっているのか、実際にこんなビラもまいていますという内容であったり、議員の方が持っている民意は、一体芦屋市民の何%の民意の話なのか。これで実際に被害をこうむっている人たちが何人いるのかも全部まとめて、それを全芦屋市民に伝えてほしい。そう要望したいと思っています。それを市が行わないのであれば、我々が代わりに芦屋市民全員に伝える運動をしたいと思っていますぐらいです。

今、この場で市長が謝罪をしたところで、結局ここにいる市民は100名いるかないかの話。それでは選挙に影響出ません。議員の方もそうだと思います。建設について反対をしている議員が全員来てない時点で、私はどうかと思っています。これをそのまま、こういうやむやの形で選挙を迎えることだけは絶対にやめてください。これらの情報を全て芦屋全市民に伝えた上で選挙に臨むようにしてくれないと困ります。

(市長) どこまでどうお答えできるかわかりませんが、個々の議員さんの行動まで私は把握もしておりませんし、何かを言える立場ではありませんので、どういうビラを出し、どこでどう言われようと、それは存じないことです。

選挙ということですが、これは選挙とは全く次元の違う話です。たまたま時期が重なったということですが、そこは十分ご理解もいただきたいと思っています。

お昼の芦屋浜管理センターでの会議が、ただ謝罪をするだけで意味のないものだとおっしゃいましたけども、捉えられ方によってはそう捉えられるのが非常に残念ですが、我々としては中止に至った経緯も説明させていただいて、ご理解をいただいたとは言いませんが、十分こちらでできることは誠意を持ってさせていただいているつもりですし、今もそのようにさせていただいているつもりです。

政治のパフォーマンスでも何でもございません。そのことだけはぜひご理解いただきたいと思

います。

(市民) 3点ございます。

小学校建設が中止ということは、今、市長の中で残っているのは何ですか。認定こども園はオーケーですか、それは進められようとしていますか。これが1つ。

先ほど民意、民意とおっしゃっていましたが、確かに民意がよくわかりません。今の申入書、議員の方の中には莫大な財政とか書いてありました。実際いくらかかるんですか、それが知りたいです。

市の全員にアンケートをとってほしいです。70億円ではなくて、再度コスト計算してアンケートしてはどうですか。小学校をつくるのはこんなに金がかかるものですかと。そういう民意を聞いて、議員の方の話は私にはわからないので、多分民意でおっしゃっているんだと思いますが、そういうことをやっていただきたいのは要望です。これで3点です。

(市長) 認定こども園はつくりたいと思っています。県の企業庁にも3,000㎡の土地を取得する方向で交渉します。

実際に小学校建設にかかる費用は、上限額として70億円とご説明させていただいています。最高は70億円。土地代についてはどこまで企業庁に補助してもらえるか、企業庁と詰めた話までは至っておりませんでしたので、70億円という数字でございました。ただし、そこまではわからないだろうというのがこちらの認識です。

アンケートをとってということです。いろんなご意見の取り方はあろうかと思っています。アンケートも1つの方法だと思っていますので、検討に値するとは思いますが。

(市民) パイプラインのときにアンケートをされました。同様の形で何かできないかなと思いますが。

(市長) 2月に芦屋浜管理センターで意見交換会をさせていただいたときには、前向きにと思っていました。いろんなことを考慮していく中で、アンケートがベストな方法かどうか思いつきませんでしたので、最終的な検討には至らなかったのが現状です。

(市民) 山中市長は去年の5月の集会所トークから、よく頑張っているなという感じを受け取っていました。ただ、パイプラインと小学校建設のやり方については、民間企業でやってきた者としては、非常に進め方が誠実さに欠けるなど。担当者の仕事に対する熱意、これが非常に問題と感じています。それは反省点として今後の市政に活かして行ってほしいと思っています。

小学校建設については、資料を見せていただきました。平成8年1月に企業庁がこの土地の基本計画を発表して、その中に小学校と幼稚園が必要だということで2万7,000㎡の土地を確保した。その年の12月に芦屋市と企業庁とが協議して、12学級になれば建設をしますという話があって、それからスタートしたと思います。

平成9年から南芦屋浜地区に住民が、他府県、他市町村から移ってきて、スタートした。平成23年には12学級以上のクラスになったわけです。その間に市長がかわられたかもしれません

が、その延長線で考えれば、平成23年に本来であれば小学校が建設されるはずでした。

建設するのであれば、少なくとも5年前から教育委員会を含めて検討を開始しないといけない。震災で負債が大きくなって、財政の非常事態宣言をしたかもしれません。しかし子どもは、少子化で日本の社会で問題になっています。1,500万人が、あと20年、40年たったら半分になるんです。それも踏まえて、少子化対策は重要な市財政に対する1つの大きなテーマです。言ったからには検討を進めて、その時々に応報なりに流すべきだと思います。

その後は、平成25年に企業庁が潮芦屋プランを見直して、改定して、その中にもまだ教育施設用地として明記しています。企業庁の立場からすれば、いつまで待たすのかと。いつまで芦屋市は着手しないのか、早く検討しないことにはけりがつかんと、これは想像ですが。慌てて内部の検討委員会で検討を開始して。検討委員会も平成26年の8月から11月の間に8回詰め込んで回答を出した。私からしたら、この回答も非常に不十分だと思います。

小学校建設、認定こども園の誘致。ただし単学級、また3学校をどうする、今でも十分ではないかというただし書きがついた。これは検討委員会と言えるんですか。本来なら教育委員会がそういうことを検討すべきだと思います。形としては教育委員会に丸投げした。教育委員会として必死になって説明会を開いて、今回に至ってしまった。

この根回しも、民間であればすごく調査して、反対意見も踏まえて議論すべき。それに対してどうするかとやっていきます。非常に長い時間があったのに、今回降って湧いたような議論をしている。それも短時間のうちにやっちゃっている。行政としては見直してほしいと思います。

単学級も日本社会で問題になっていまして、浜風小学校も2年先には単学級ですか。これに対する対応を考えていますか。文部科学省も、今年1月にはその手引きを公表しています。日本全国でもいい活動している地域がいっぱいあるんです。デメリットの最小化、メリットの最大化。ここをもっと調べて、芦屋市もこの先に単学級になりますから、教育委員会でしっかりやっていただきたい。今回の流れを踏まえて、しっかりと反省して、次に向けてやっていただきたいというのが私の言いたいことです。

(市長) 進め方が不誠実ではなかったかというご指摘でした。昨年の春から、企業庁から、現在土地を使用しているミズノとの契約が平成27年度末で切れるから、芦屋市としてこの教育施設用地をどうするんだという最終的な判断を迫られた中で、時間が無いとは申しませんが、内部で検討委員会を立ち上げて、年内に、最終的には年度内に判断をすとお答えをさせていただきました。南芦屋浜地区には小学校が必要だと、内部ではそういう結論に至りました。

そういう方針で進めていきましたが、その過程において地元の皆さまの声を十分に聞くことがなかったことについて、今、振り返りますと、申し訳ないことだったと非常に反省しています。

こちらとしては一定の方針を早く出して、地元の皆さまの声や、それに影響を受ける芦屋浜の皆さまの声、議会の声も十分にそれについて検討していただくという思いがございましたが、

そこに至るまでにもっと丁寧なことが必要だったかなと思って反省していますので、今後の行政に十分活かしていきたいと思っています。

(市民) 市長には要望書を出させていただきまして、そのときにぜひ一緒にやりましょうと固い握手をしたのが、それが何だったのかなという悔しさがあり、申し訳ないですが、こういう場に出席させてもらいました。

それよりも検討委員会で示されている土地36億7千万円、建物精道小学校規模31億8千万円、これが最高70億円になる根拠ですね。精道小学校は21億円で建て替えらたんですよ。それが31億円という根拠は何だったのかと、要望書を出したときに、土地の金額は一桁で取得できると思いますと、市長がおっしゃられたのを覚えておられますか。

(市長) 具体的に詰めた話ではありませんが、例えば2分の1とか3分の1とか、企業庁でご理解をいただくなれば、そういうことも可能だった数字です。

(市民) 幅はあるかもしれませんが、全然額が違うじゃないですか。36億円。何で70億円が一人歩きしてしまったのか、不誠実というよりも、これは反対派議員の方に揚げ足をとられるもど、政治的なものじゃないとおっしゃられましたが、とられて仕方がないことじゃないですか。

(市長) 金額については、我々も十分反省をするところです。もっと詰めた話を企業庁として、ある程度金額が固まった時点で、これだけの金額と提示すべきだったと思っています。当初建てる時には、最高これぐらいまで要ると説明が入りました。

小学校建設で、ぜひ一緒にやりましょうということとして、私自身もここに小学校を建てることについての夢がありましたし、こういう小学校を建てたいという夢がありました。現実にはできない事実が目の前にある以上、建設を中止するという判断をせざるを得なかったことも、ぜひご理解をいただきたいと思っています。

(市民) できないというのはどういうことですか、14人が反対しているからですか。14人の反対の方々の内容、どういった反対内容なのか、今、ビラがいろんな議員の方から入っていますが、70億円とばかり書いて、それ以外のこと、この地区をどうしたいのかという内容はほとんど載っていないんです。

(市長) 申入書には70億円という数字は入っていません。

(市民) それであれば、市長はそういう人たちに、違うでしょうときっちりと言っていかないといけなかったんじゃないですか。

(市長) 70億円という数字が出ていれば、そういうことも可能かと思いますが。申入書は、小学校を新設しても10年後には単学級になる見込みがあり、また既存小学校の学級数、児童数減少を招くことも明白だから、この際、計画の白紙撤回を求めているという申入書です。70億円という数字は申入書に出てきておりません。

(市民) ここに来ている皆さまもそうですけど、市長に対しては、もう市長って呼びできないです

よ、申し訳ないですけど。資産価値も下がってくるのが目に見えてわかるでしょうし、訴訟ものです。済みません。口悪いですけど、以上です。

(市民) まず1つだけ、市長からお話が出たかどうかかわからないですが、ミズノスポーツさんとしては、平成27年度に契約を更新して、運営を続けたいということは、この小学校の話が具体的に我々の耳に届く夏前ぐらいから、そのようなお話を聞いています。ですので、ミズノスポーツさんが撤退されるので小学校云々という話はなかったのかなと。ここには皆さまいらっしゃるんで、事実として話ができる機会と思っています。

ここに住んで丸9年余り。行政の方々とご協力させていただきながら、もともとがビーチ近岸部に住んでいますから、いろんな迷惑行為、トラブル、想定外の被害がいろいろ出てきまして、それに取組んで9年余りですが、芦屋市行政として、この地区をどのように活性化して取り組んでいかれるかの観点が、言い方厳しいですけど、全く欠落しておられるんじゃないかと思えます。

その中で小学校が、多分反対されている方々は潮見とか浜風ですか。小学校の校区の中で、コムスクとかいろんな集団の中で皆さまがつながりを持たれているわけで、それが分断されて、それぞれが縮小化していくことに対する不安を強くお持ちなので、その部分が非常に今回の反対運動の根幹になったのかなと。

その分でご説明不足だったこともあり得ると思いますが、なかなかご理解をいただいて進めていくことは、結果として難しかったんだろうと思っています。我々のエリアは郵便局もない、消防もない、まともな集会所もない、警察機能もない。小学校の建設に、私個人としては非常に期待している部分がありました。

ここからは強い要望ですが、今回の失敗を踏まえて、少なくとも派出所、集会所、それに準ずる機能をぜひ早期に実現していただいて、小学校ができなくてお困りになられる方がたくさんおられると思いますけど、現状では多分復活させるの無理だと思いますので、そこに関してしっかりやっていただきたい。

芦屋市さん、いろんなところで消防分署があったり、派出所があったり、小学校、中学校がある中で、いろんな対策を立てられていると思います。潮芦屋、南芦屋浜地区を行政としてしっかり捉まえていただいて、将来、夢のあるまちに育てていただく。

パイプラインの問題も小学校の問題も、我々住民側にしたら翻弄されて、いろいろ働きかけも、いろんなことやったわけです。私も含めて、エリアの会長さんも含めまして、心配もかけながら必死にいろいろなことやられていたと思います。それが無残にもこういう形で砕けたことは、芦屋市行政として、特に市長の南芦屋浜地区のしっかりした将来像、これが明確でないことが最大の理由だと思います。先ほど言いました3点、しっかり実現していただきたいなと思います。

小学校をもう1回白紙撤回して、再現してくださいと思われておられる方もいらっしゃるかも

わかりませんが、それは次のステップなのかなと思いますので、よろしくお願いします。

(市長) いろんなご要望が皆さまからもあろうかと思しますので、その辺は意見を出していただければと思います。今の派出所とか集会所というお話もありました。かねてからご要望の郵便局、銀行等も早急に取り組んでいきたいと思っています。

今までは郵便局に設置の要望をした際は、ある程度人が張りついてきたらという答えをいただいています。そうでなくて早急に、何が何でもという不退転な気持ちで利便施設はこっちへ持ってきたいと思っています。

(市民) 市長が小学校の建設等を断念された根本的な理由は、14人の議員の申入書があった、これだけだと思います。申入書の文言がどうなっているか、南芦屋浜地区の住民も、どういう形で議員の人が小学校建設を断念してくださいという申し入れをしたか、ちゃんと言わないといけないと思います。

今、言いますけど、「また小学校をコミュニティの核とし、人口増の手段ともしています。小学校建設によってその効果は期待できるものとしても、それを目的として多額の財政負担を負うことは必至であり、コミュニティ醸成の代替の手段を検討すべきであると考えます」ということで、14人の議員は小学校建設することによって、コミュニティの場としては非常に価値あるものだという判断はなさっていると思います。

14人の議員の反対理由はただ1つ、多額の財政負担を負うのでやめてくださいと。あとは単学級の問題です。これは教育の問題だから、また別だと思います。多額の財政負担によって、これをやめてくださいというのが根本的な主張だと思います。

これは大人の世界ですから、申入書と言っても、14人も議員が雁首そろえて、多額の財政負担とはいくらを想定しているのか。実際問題いろんなビラが入ってきます。今日も持ってきています。出してもいいですが。ある議員の方でも70億円想定しています。

要は70億円を前提に多額と考えていると想定していいじゃないですか。もし違うんだったら、おのおの議員が、こんな重要な問題をご破算にするのに、多額の財政資金はいくらを想定して言っているのか。我々住民にとっては大変な問題ですから、それをはっきりとさせないと、申入書を承認できないです。根本的に考え方が間違っています。大人の世界じゃない、こんなの。多額はいくらですか。

もう一つ言っておきます。70億円の中に、土地の用地取得費が26億円となっています。もともと学校建設のための用地だから、これは無償でしょう。それを26億円もの多大な予算を組むこと自身が、見積をつくっていること自身が我々にとっては非常に不信なんです。それも正してください。

そして、この14人の議員に再見積した数字を出して、これが多額ですかと、彼らと直談判してください。当然でしょう。ここで約束してください。

(市長) 70億円という数字は、こちらから当初に提示した額でして、土地の値段が、もともとただではないかというのには当たらない話です。

(市民) 私が言っているのは、多額の費用がかかるから反対だということです。小学校を核にしたコミュニティづくりは大切なことだけれども、多額な費用がかかるから反対だという理論です。多額の費用は、今、市長もいみじく言いましたとおり、70億円を前提にしていると言われましたでしょう。それを前提だとすれば、この申入書は無効ですよ。

(市長) 70億円があるからだめだという申入書ではないです。

(市民) 何度も言います。この議員たちは多額はいくらを想定して物を言ってるんですか。それを確認しないで、申入書によって小学校建設を破算にさせたんですか。

(市長) 小学校を新設しても10年後には単学級になる見込みであることからです。

(市民) それは教育の問題で、単学級の問題と財政の問題を言っているんです。単学級の問題は単学級の問題でまた論じましょう。だけど、財政の問題自身も既に潰れているじゃないですか。70億円も本当にかかるのかどうか精査して、もう一度この14人の議員とも懇談して、議論して、どうするかをもう一度、新規まき直しでやってください。

小学校建設中止がありきでは、とんでもない話です。ここで確約してください、もう一度やりますと。無責任ですよ。

(市長) それぞれの議員さんの思いは、多額というのは、70億円が当然念頭にあるんだと思いますが、それが全てではない申入書です。

(市民) 単学級は置いておいて、彼らの批判している原点の1つが崩れているわけです。ある議員のビラを見ました。70億円しか書いていないです。単学級なんか書いてないです。「70億円を取り消しさせた、万歳」といってビラをまいています。

議員に70億円が非常に重くのしかかっているなら、それが取り除かれれば再議論、もう一度議論のやり直しでしょう。そう思いませんか。それが大人の約束ですよ。子どもの約束じゃない。きちっとした数字を出して、もう一度再検討するのが筋じゃないですか。その上で、小学校をやるかやらないかを、もう一度討論していけばいいじゃないですか。

(市長) 企業庁とこの土地の値段がいくらになるかという詰めた話をしておりません。本来なら、詰めて皆さまに金額も含めてご提示するべきだったと、非常にその辺は反省しています。

(市民) 撤回した理由を教えてください。何で撤回したかの理由になってないじゃないですか。お金でもない、単学級でもない、何なんですか。理由を教えてください。先ほど言われたように、多額の財政、逼迫するからと書いているのは、70億円のことじゃないと市長は認識しているわけですよね。議員が何のことを言っているのかわかってない状況ですよね。

議員の方は、70億円と書いていますけど、反対の理由はそれだとは認識してないということですよね。単学級の問題はまた別の問題じゃないですか。それだけの問題で建設を中止にしたん

ですか。本当の理由を教えてください。だから選挙のパフォーマンスだと言ってるんです。

(市長) 単学級が別の問題だとおっしゃられますけど、先方の申入書の中には、将来的に単学級になることがわかっていて建てるなということですから、単学級が理由にならないことにはなっていない趣旨です。

(市民) では、単学級の理由だけで建設中止にしたんですか。

(市長) 単学級もあれば、巨額の建設費を投じた上。

(市民) 市長は、70億円かどうかはわからないとおっしゃっているんですよ。実際にはいくらかかるのですか。

(市長) その辺は企業庁とも詰めた話をできておりませんのでと申し上げました。

我々が70億円を算出したのは、上限額として70億円かかりますと当初示しましたから、議会へは70億円以外の金額はこちらから提示しておりません。

(市民) 本当の理由は何ですか。なぜ白紙撤回したのか。

(市長) 大きな民意が示された以上、このまま皆さまを、淡い期待を持っていただいて、結局はできないことを私が強くできるできると言って、大きな落胆をさせてしまうのは大変申し訳ないということです。

(市民) 14名の議員の意見を芦屋市民の代表の声と重く受けとめ、それが民意だと言われています。その人たちが選ばれるとき、私はまだ芦屋市に引っ越しておりません。そのころの選挙には全く関わっていない市民です。また、我が家には5人選挙権を持つ者がいますが、全てそのころの選挙には全く関わっておらず、その民意の中には当然入っておりません。

南芦屋浜地区という土地はこれからの土地ですよ。住んでこられる方もたくさんいます。そんな人たちが本当にこの民意の中に入っていますか。私たちは芦屋市民には含まれておらず、市長からするとただそこに住んでいるだけの人なんですね。市議会の方にはその民意は含まれていません。選んでいませんから。

市民の意見としてアンケートを取るなりして、その土地に住んでいる人たちの意見を聴く、それこそが民意です。それを、先ほどから検討しますばかりで、ちゃんと聞きますと約束してくれないんですか。この場さえしのげばそれでいんですか。検討ではなく、アンケートをとって、住民の声を聞きますと約束してくださいと言っているんです。

その上で、住民がアンケートの結果、南芦屋浜地区に小学校は要りません、そういう結果が出たら当然納得がいきます。私が投票もしない14名の人たちが言ってる意見を重く捉えるようなことは、私はありません。ですから、ここで約束してください。

(市長) 私が選んでないから民意じゃないと言われても、議員の皆さまはしっかり選挙で選ばれた、それぞれ多くの後ろに市民の方がおられて議会に当選されてこられているわけですから。しっかりした大きな、市長も民意ですが、議会も大きな民意です。

(市民) 日ごろ市長には、市民にいろいろしていただいております。

今までの話を聞いていますと、民意、民意とおっしゃっていますが、その民意という言葉、これは本当に都合のいい言葉で、私は民意というのはいわかりません。市長も挨拶の中で、民意によってこの話を中止せざるを得ないと、こういうことをおっしゃったんです。

ですから民意は果たして、この建設の話が上がってから中止になるまでの間に、どれだけのものが民意であったか、具体的な話をしてほしいです。

それと、私はこの地区に来て10年で、建設されていくのをよく見えています。あゆみ橋を通過して向こうの学校へ行く子どもたちは何人ぐらいいるのか。最終的にここの地区が完成したときには、人口と子どもの数とかを合わすと、どうなるか推測されていると思いますが、この資料の中に記載があれば大体わかりますが、そうしたことは何も書いてない。そういうことを具体的に教えてほしい。

(市長) 12月議会、3月議会で議員の皆さまから、建設について非常に消極的な発言もございました。ただ、議案として出しておりませんので、何人の議員さんが反対をされているかも掌握し切れない状況でございました。

その間、意見交換会を3回させていただき、建設待望の方もおられれば、建設について非常に消極的な、反対の方のご意見もたくさんいただきました。そうした中で私としましては、非常に苦慮していたところです。3月25日の14名の議員の皆さまの強い思い、申し入れを受けて、最終的な判断をさせていただいた経緯です。

現在、南芦屋浜地区には5,400人の方がおられまして、最終的には8,000名の方がお住みになられると予測しています。

(教育長) 南芦屋浜地区から潮見小学校に、あゆみ橋を渡っていく子どもたちは、大体朝7時55分から8時10分ぐらいの間に集中していますが、400名弱です。推計ですが、当地区、陽光、海洋、南浜、涼風の子どもの推計では600名弱を予想しています。

(市民) 反対の方々もたくさんおられると私も聞いていましたし、市議会議員さんが反対をされて白紙撤回されたものを、もう一度アンケート等を進めてやることについては、かなりの混乱が生まれるんだろうなというのは想像にかたくないですが。

ただ、企業庁が芦屋市に無償貸与を現時点ではできない、と市長がおっしゃられました。無償貸与かどうかは別にしまして、我々が住むときも、割と最近まで、あそこは学校用地として、私たちが買うときは、小学校ができるよというのが宣伝文句、売り文句で購入しています。

その後の経済状況は当然ありますけど、そういう約束の中でミズノスポーツさんができ上がってしまって、全然違ふと裏切られたような気持ちもありました。基本的には、企業庁としてはかなり優遇した形で芦屋市に供与する、販売する、もしくは無償供与するという責任があると私は考えています。その部分で、もう一度予算を検討し直すことがあってもいいのではないでしょう

か。

もう一つは、今の状況の中で確かにすぐには難しいのかもしれませんが、学区が分断されて、それぞれのコミスクなり学校の活性化が低下して、親御さんたちが、例えば潮見小学校でみんな楽しくやっているのに、PTA含めて1つの形があるのに、そんなふうに分断されたら子どもたちもかわいそうだし、小学校を卒業されていくお子さんも母校が変わったり、いろんなところ含めて気持ちが萎えていくし、よくないねというところが、今回の1つの反対の根幹だと思っています。

これだけ近い距離に、例えば我々のところにできた場合、3つの校区になるわけです。そこをうまく運営して、例えば3つの校区が一体感を持てる学習だとか、イベントだとか、そういうところで芦屋浜のエリア、将来に向かって、10年後こういう形で運営していきますという夢のある形を住民の方にご提示いただいて、賛成を募っていく。

野鳥だとか海生物だとかそういうものに恵まれて、非常に豊かな自然になってきています。でも、残念ながら管理が行き届かなく、松林は枯れかけています。何度言ってもなかなか剪定してもらえない状況です。

そういう部分も含めて、例えば校外学習をここで、校外学習という大きなものでなくても、ここで3校区が集って、みんな友達同士で学習していくとか、お互いが交流し合うような形を提供して、例えば半年後にもう一度しっかり皆さまがご納得いただけるようなプランをつくり直して、再度、その時点では、民意を問う意味では住民アンケートを、こういうことでやりたい、予算的にはこれぐらいで済むんですよと、そういうことの可能性はないですかね。

(市長) 行政も今後のまちづくりを検討しますが、特に南芦屋浜地区の地域の皆さまが、自分たちのまちはこのようにしたいんだと、例えばまちづくり協議会的なものを皆さまの中から出していただきたい。それを行政と一緒に、まちづくりを進めていきたいと思います。

(市民) 私はそれほど小学校建設に対して強い思いはなかったんですが、これだけの方が小学校をつくっていただきたいという思いがあるので。このまちはまだできたところで、ある意味で不満が少ないんですが、これからどんどん老朽化していく。先ほど8,000人とおっしゃられましたけど、私、計画人口9,000人かなと思っていたんですが、減っているんですね。

(市長) 8,000人です。高層部分が減りました。

(市民) 人口が増えていく間はいいですが、その先、将来性も踏まえて、なかなか厳しい状況がありますので。市長の応援を我々が自治会通じて、しっかりそういうプランを、こういうふうに見据えてできませんかと、プロの教育委員会のご意見もどんどん出していただかないと。

(市長) 行政は拒否するものではありません。

(市民) そういう形で我々も頑張って、近い将来、もう一度、選挙が終わられたらパフォーマンスかどうかわかりますから、検討していただけたら。

このままでいけば、ミズノスポーツさんに居座ってもらっているほうが、変に企業庁が高値でマンションでも販売業者に売られたら、とんでもない環境になっていくわけですね。

そういう面でも、ミズノさんの一部を集会所にしていくとか、そういうこともあります。これだけ皆さまの声が小学校建設で強いわけですから、もう一度プランを見直していただいて、再度提出を半年後とかに検討いただくことができないかな・・・、難しいんですね。市長が難しいと言ってます。

(市長) いろんなまちづくりのプランは、皆さまもそうですし、行政もそうです、一緒になって。まだ100%手放したわけではありませんので、あの場所を核としてやれないことはないですので、こういう提案があるぞ、こういうふうにしたらというご意見を言ってください。

(市民) 確かに現時点では難しいですが、我々が住んでいる所では、小学校建設を熱望してる方が非常に多いと感じています。その中で、いろんな夢のあるあり方を検討していただいて、小学校建設に結びつけていけないのかなというところですが。

だめなら、これ以上、感情的になって対話してもしょうがないので、私個人的にはしっかり、先ほど言ったようなことを実現していただいて、先ほどの場所に、少なくともミズノさん、あれだけの占有面積を占められる必要があるかどうか、駐車場の問題も含めて。そういうことは考えていただきたいなと思って、強くそれは要望します。

(市民) 私は3回目の市民意見交換会に参加させていただいて、小学校建設については反対だという意見を述べさせていただきました。その理由ですが、コミュニティが分断されるのも1つありますが、単学級が子どもたちに与える影響がすごく大きいと感じています。

子どもたちの関係が固定化してしまう、大人1人でずっと見るわけですから、ルールが固定化してしまう。その集団でずっと上がっていくわけですから、人間関係がこじれてしまったら子どもがしんどい思いをする。先生たち、潮見小学校では交換授業とか行って、若い先生がどんどん入ってきていますけど、若い先生がうまく育っていています。単学級だと先生も育っていかない、教育がどうなっていくんだとすごく心配をして反対意見を述べました。

3回目の意見交換会では反対意見がすごく相次いでいて、新聞にも載っていました。今回この場所では賛成の意見がたくさん出ていました。私が参加したときには反対意見が相次いでいて、両方の意見はどうしてもあると思います。私は市民意見交換会に参加したときに、いろんな質問を皆さまがしているのにちゃんとした回答がなく、建設ありきで進められたので、とても不満と不信感を募らせてしまいました。

潮見中学校区の保護者が、ちょっとおかしいじゃないかと、自主的に集まって意見交流をたくさんの方たちで行ったり、中立な立場で保護者アンケートを行わないとか、意見やアイデアを吸い取ろうよみたいなことをやろうとしたりしましたが、教育委員会ができない、市としてもしない。賛成としても反対としても、一体どこで意見を聞いてもらえるのかみたいな思いが募っ

ていき、でもこのままではいけないと思いました。

その後、同じ思いの人が集まって、それぞれが今までの資料を読み込んだり、ほかの地域を調べたり、教育委員会をはじめ、いろんな方と話をしたり、委員会の傍聴に足しげく通ったり、みんなで一生懸命考えてきました。その中で、検討委員会の報告書や議事録を読むと、小学校が建つことで出てくる問題点が列挙されていて、こんなにも問題点があるのに、これの具体策がないままに建設へ進んでいったら危ないと思いました。

検討委員会の途中までは、建設は妥当ではないという意見が議事録を見ていると多くて、10月あたりで突然建てましようとなっているのがとても不自然に感じていました。市の方は、それぞれが単学級になっても3校存続していく一方で、新設校は10年経てばほかの施設に転用できるよという話も出てきたり、この小学校を一体どうしたいのか。小学校が建つことで出てくる問題点をどうするのか、すごく問題に思っていました。

本来、子どもや教育のために建てられるはずの小学校が、先ほどから単学級は違う問題だと出てきていて、私はその意味がわかりませんが、子どもや教育を重点に考えずに建てられることが、いけないと強く思って、同じ思いの仲間たちと一緒にずっと勉強を続けてきました。

私は、今回建たなくて良かったと思っていますし、議員の方たちともいろんな意見交換をさせてもらったので、全部の民意を吸い上げたとは言わないかもしれませんが、私たちの思いは聞いていただけていると思っています。

昨日、やっとこの地域で、反対、賛成ではなく、このまちについて話ができたと思っています。紆余曲折あったけれども、これを機会に地域のことや教育のことや芦屋のことをすごく考える機会を得たので、このことをぜひ今後に生かしていきたいと思っています。

今、私が市長さんや教育長さんをはじめ、私たちが選んで、代表として芦屋市のために仕事をしてくださっている全ての方々にお願いしたいことがあります。4点あるんですが、できないことはないと思うので、ぜひしていただきたいと思います。

第1番目には、市民の声をもっと大事にしてほしい。賛成の意見の方がどんなことを考えておられるのかもすごく知りたかったです。反対と言いながらも、今回アンケートをやってほしかったとすごく思っています。地域が時間をかけて話し合いができるように、もっと前の段階から出してもらいたかったし、これから何か地域のことを進めるときには、もっと丁寧に情報を公開して行って、みんなが情報共有できるようにアナウンスをしてほしいです。昨日集まったメンバーでもすごく情報量に差があって、問題だなと思いました。

2番目、誰もが平等に受ける権利の幼小中の公教育を、もう一度見直してほしいと思います。今ある学校園、今ある子どもを大事にしてほしいと思っています。浜風小の単学級化について、今すぐ対策をしてほしい。小規模校ならではのすばらしい実践がある、全然具体的な話は聞けませんでした。教育委員会で何度もおっしゃられていました。それを今すぐ浜風小学校でやってほ

しいと思います。

新小学校を建てるより前に、早急に山手中学校、精道中学校の建て替えをしてほしい。みんながちゃんとした教育環境で公教育が受けられるように、芦屋市全体を考えてもらいたい。

3つ目、人口減少とか少子化対策はもっと真剣にやっていただきたい。小学校を建てたらいいということではなくて、建てたとしても10年後にはないかもしれない。どんどん子どもが減っていく小学校を建てるよりも、ハードではなくてソフトの面で対策を早急にしてほしい。子育てするには芦屋市にはいいところありますよとか、子どもがない世帯にはこんないいことがありますよとか、年配の世帯にはこんなメリットがありますよという芦屋市にしてほしいと思います。

4番目は、南芦屋浜地区のまちづくりをちゃんと考え直してほしい。小学校建設のことで問題になっていた通学路の安全・安心についての対策。私は生活の利便性を高めて、小学校に限らず、利便性を高めることで人を呼び込むことができると思います。バスの増便とか郵便局、派出所、いっぱい出てきていました。そういうことを真剣に考えていただいて、まちが活気づくようにしていただきたい。

認定こども園を3,000㎡で建てることを計画されているのであれば、併設なり何なりしてもらって、小さい子どもたちや小学生が安心して遊べる遊び場として児童館なり、子のない世帯の方や年配の方たちが一緒に集えるような、子どもたちとも交流できるような集会所なりを兼ね備えた施設を、ぜひその場所に建設していただきたいと思います。

4点よろしくをお願いします。

(市長) 市民の声を大事に、もっと丁寧に情報を共有できるようにということでございました。その辺が、時間が迫られる中で欠けていたと十分反省をしていますので、今後は市民の声も十分に聞きながら、お互いに意見を出しながら行政を進めていきたいと思っています。

人口減少、少子化をもっと真剣にということです。まさにそのとおりです。芦屋はまだ人口減少になっていない数少ないまちでもありますし、既に日本全体の人口減少、少子化になっている中ですが、その辺は先進市の事例も参考にしながら進めていきたいと思っています。

南芦屋浜地区のまちづくりを考える、認定こども園に児童館とかいろんなものを併設してはどうかということです。認定こども園の場所もそうですし、ここの場所をもっと有効活用できないか、この交流センターをもっともっと使い勝手のいいものにできないかとも思っています。

利便施設は、緊急に誘致に向けて動き出したいと思っています。既に動いてはいますが、もっと早急に考えていきたいと思っています。

(教育長) 学校の建設について、いろいろ皆さまにご心配をおかけしたことに對しては、非常に申し訳なく思っています。

南芦屋浜地区に小学校をつくることについて、市長から中止という重い判断がありまして、3月31日に教育委員会として、方向性について全教育委員が議論しまして、断念せざるを得ない

という方向を出しています。

今度の4月10日におきましては、今まではこの地域に学校が望ましいと考えてきました。そういう中で、建てなかったらどういうことが問題なんだろうとかも、去年8月までに大いに議論してきましたが、改めて、今日申し出いただきました内容も含めて、方向性などを議論したいと思っています。

また、今言われた浜風小学校の単学級と、ここに学校つくらないからといって、浜風小学校が単学級になったからすぐ統廃合だとは考えておりません。と申しますのは、潮見小学校に子どもたちが今まで以上に増えてくることですから、それに伴い、場合によっては仮設の校舎とか、その側面も出てきます。そのことは教育委員会として、浜風小学校の単学級の問題、潮見小学校のあり方等も議論して行って、どういう形がいいのか皆さまにもお示しし、またはご意見をお聞かせ願いたい。

平成27年度で芦屋の教育振興基本計画が、1期が終わりますので、2期目を策定するに当たって、ここで皆さまからいただいた意見、教育委員会としてこうしたいんだということもお聞かせ願う中で、芦屋の教育としていいものを築いていけたらなと私は思っています。

(市民) いつも小学校の話をしていただいている、今、非常に残念というか腹立たしい思いでいっぱいです。

今回の件、先ほどから時間のなかでと市長が何度もおっしゃられていますが、3月末で白黒つけなければならなかったんですか。

(市長) 年末までに方針を決めるのは、昨年から申し上げてきたところです。

(市民) その結果、建設する方向で行くと2月にここで説明会をして、舌の根も乾かないうちに白紙撤回しなければならなかった。3月末に大きな何かがあったんですか。

(市長) 3月末ということではありませんが、3月25日に市議会の有志の皆さまから申入書が出まして、それを重く受けとめたということです。

(市民) それは議論のリスタートではないんですか。エンドですか。

(市長) エンドと理解しました。

(市民) 我々からすると、それは単なるリスタートであるべきだなと考えています。

(市長) エンドであると同時にリスタートだと思います。それは小学校建設ではなくて、まちの活性化をどうしたらいいかを考えるリスタートです。

(市民) リスタートするに当たって、この小学校はないことが前提でのリスタートになるのではないですか。

(市長) そのように理解していただいていると思います。

(市民) なぜそうになってしまうんですか。もしリスタートと言うならば、この新設も含めて、浜風と潮見と3校区のエリアをどうするのか、ビジョンをしっかりとつけて、場合によっては違うと

ころに、真ん中に1個小学校つくって、3クラス制の学校を1個つくったらいい。そのほうがコミスクもPTAも学校行事も活性化すると、こういった議論をリスタートするのが今回のきっかけじゃないんですか、と私は考えています。

その中で、ここに小学校がなしという前提で考えるのはいささかおかしい気がしますし、なぜそんな急転直下な話になるのか。賛成派の方も、もしかしたら反対派の方も市長に対して、芦屋市に対して不信感を募らせている1つの大きな要素だと思います。リスタートをする位置づけをしっかりと明確にさせていただくとともに、将来構想を、ビジョンをきちんとつくっていただいて、やっていただきたいと思います。

その結果、どういう形で小学校にしましょうというのができ上がると思います。今度それに基づいてつくるのかどうか、民意だとか何十億円だということではなくて、本来あるべき形をつくるんだということであるべきです。

先ほどから民意という話が出ていますが、芦屋市全体で民意を問うたら、奥池の方から涼風の方までとったら、反対派のほうが多いに決まっています。ほとんどのエリアの方は関係ないと思っているわけです。奥池の方が南芦屋浜地区に小学校をつくることに賛成ですと言うはずがない。それはなぜかという、将来ビジョンがなくて、こういう形にする、だからそのためにここに要るんだと示してないから、単純に70億円みたいなしようもない話に特化した話になって、選挙に使われる。これが今の実態と思っています。

この件に関して、そんな短い話ではないと思っています。つまり、もっと時間をかけて、継続して取り組むべきことであり、場合によっては市長も次かわるかかわらないか、それはわかりません。首長として継続した議論、フラットな議論を続けることの確約をしていただきたいのが1点。

もう1点、私も買うときに小学校ができるという前提で土地を買い、家を建てました。勝手な想像かもしれませんが、それによって自分の子どもに対しても利便性が高まるし、地域にとっても利便性が高まるし、地域の資産価値も上がるし、住みよいまちになっていく、当然そう思います。その前提となっているのは、ただのディベロッパーの営業トークではなくて、企業庁であったり、芦屋市の出している資料からそういうふう判断をしているわけです。ただの詐欺としか思えません、残念どころじゃないです。

これで涼風町の土地が売れ残り、まちが廃れ、資産価値が下がりみたいなことになっていくと、誰がどう責任をとってくれるのか、集団訴訟でもしたらと思っています。いや、できるのかどうかわかりません。ただの営業トークに、だまされたおまえが悪いと言われるかもしれませんが、それぐらいの感情を持っています。

きちんと1つ目に申し上げた点を明確にし、継続的にフラットにやることを首長として確約をしていただきたい。

(市長) 小学校を建てないという一定の結論を出した段階から、新たに南芦屋浜地区を、そして予定地をどうしていくかは、地域にどういうご希望があるのか。その辺も行政と一緒にこれから相談をしながら進めていくのは、間違いなくここで、芦屋市長としてお約束いたします。皆さまも、ぜひ建設的なご意見をお出しただいて、南芦屋浜地区の地域を芦屋のとびきりのまちにするために、お知恵を貸していただきたいと思っています。

(市民) 芦屋の教育に関するビジョンについて、私は確約をしてほしい。

(市長) 小学校建設でなくても、いろんな方法があると思います。その辺は予定地を中心にした形が、またここを中心にした形がどうできるのか、一緒に考えていきたいと思っています。

(市民) 今の議論に非常に私としては同感をしています。

そもそも2月にここで、建設をする前提で話を聞いてほしい、意見を欲しいとお話をされました。その後、意見が出て、反対の意見が多かったから、あるいは、ほとんどこの地域に顔見せたことのないような議員さんたちが、自分たちの利益のためにかどうか知りませんが、そういう形で申入書を出して、反対意見が多いから、これを白紙撤回し、中止をするとおっしゃっている。

今、ここでこれだけの方が賛成、建ててほしいという意見を言っていることに対して、何も感じないんですか。これだけたくさんの方が来て、もちろん反対の方もいらっしゃるでしょう、賛成の方もこれだけいらっしゃるという意見もあるんです。2月のあのときに反対は余りいなかった。でも、2月の後半の3回目のとき以降、非常に大きな意見が出たかもしれない。それと同じように、今これだけ出ているんです。あれで意見を返したなら、もう一回ここで意見を返さないといけない話になります。そのことについて、どのようにお考えですか。

(市長) 3回の意見交換会を受けて、本会議等の議員の皆さまからのいろんなご意見も受けて、3月25日に、議員の皆さまが、責任を持った形の申入書が来たわけです。これは何度も申し上げていますように、大きな民意だと判断したわけです。

(市民) なぜ、それだけが民意なんですか。その14人の方が全てですか。

(市長) 議員の皆さまは市民の皆さまから選ばれた議員さんです。

(市民) でも、14人の方々がこの地域のことをどれだけ議論をして、意見をおっしゃっているか我々は全くわかりません。それが民意だと言われると、余りにも中途半端過ぎるし、いい加減過ぎます。この前、建てたいとおっしゃったんですよ。その意見をひっくり返した。それが14人の方の単なる意見でそうなるわけです。どういうことなんだろうか。

(市長) 議会は最終決定機関ですから、いくら行政で、こうしたいああしたいと言っても、議会がノーと言えばノーになるわけです。ただ、これは議決でも何でもありません。

(市民) そうですよ。議決してないですよ。

(市長) ないですが、議決に準ずると考えております。

(市民) 議決に準ずると言っても議決はしてないわけです。なぜこの段階で全てをご破算にするのか。

(市長) 大変重い判断をして、印鑑も押した形で、ご本人たちが私のところへ来て、申し入れをしたわけです。

(市民) それは14人の方だけじゃないですか。議会の議決でも何でも無いものをもってして、それが全ての民意だとおっしゃるのは乱暴過ぎやしませんか。もう一回、この地域の方々の意見をしっかりと聞いて、それから議論するべきだと思います。今の段階で中止だと言い切ってしまうのはやりすぎです。少なくとも、もうしばらく議論は続けるべきです。絶対に中止は許せない。

正直言います、私も100%賛成とは言い切りません。こういうふうに対処している方々の意見だってわかります。それを前提にしても、この段階で議論を打ち切るのは余りにもやりすぎです。ぜひそれについて、もう一回継続して議論をすることを、ここで断言いただきたい。

(市長) 冒頭にも申し上げましたように、小学校建設について、議員の皆さまの有志の方が申し入れをして、それを重く受け止めています。

(市民) それが乱暴過ぎますと申し上げているんです。その乱暴さに対して、もう一回議論を続けましょうとなぜ言えないんですか。

(市民) 南芦屋浜地区は非常に行政サービスが少ない地区だと思っています。消防署もなければ派出所も1軒しかない。集会所も、ここが一応できたんですが、いざイベントをやろうとしたらお金を取られる施設です。

その中で、小学校ができることに対して、行政が子どもに対して投資していると私は受けまして、非常にいい投資だなと個人的には思っています。その中で、議員の方が反対をされた。それぞれの地場が当然あるでしょうから、70億円を南芦屋浜地区に使うのは、それぞれの方の考えの中では無駄だとお考えになられたんだと感じました。

14人の方が全てわかっているわけではありませんが、小学校に対して70億円が高いと言われるのであれば、今後、例えば50億円で小学校以外の何かを建てる、30億円で何かを建てると言っても、そんな投資を南芦屋浜地区にしたら無駄だと言われるような気がして、今後、南芦屋浜地区に対して何も投資してくれないんじゃないかなと、不安をすごく感じる今回の話です。

もし選挙が終わって、ゆっくり物が考えられる段階になった時点で、この場では白紙撤回とおっしゃられましたけれども、もう一度、白紙でいいのかどうかとか、そういうところからゆっくり考えていただきたい。

ミズノが平成27年度で企業庁との契約が打ち切られるなど、いろんな期限があるとは思いますが。芦屋浜でも小学校が2校ある。それが芦屋浜と同じ面積の南芦屋浜地区には1校もない。芦屋市全体の学校の配分もぜひお考えいただきたい。

この場で、白紙に戻したものをまた戻さないと言えないんだろうと思いますが、もう一回市長になられた後でゆっくり考えていただいて、引き続きご検討をお願いしたいなと思っています。

(市長) ありがとうございます。

せっかく我々の手にある土地を、小学校建設がない前提で、どういうものができるのか、どういふことをしていけば南芦屋浜地区の活性化につながるのか。それを、もちろん私も考えますが、地域の皆さまにぜひその辺は考えていただきたいと思います。こういうのを我々のところに欲しい。決して我々はそれを否定するものではありませんし、可能性があるなら、それに向けて全力を傾注して活性化のために取り組んでいきたいと思っています。

郵便局をはじめ利便施設等については、最大限努力して誘致したいと思っています。

(市民) 市長の意見がころころ変わったら、僕の子どもに何と言ったらいいんでしょう。学校ができるって、じいじばあばの家にみんなでいこうかといって、楽しみにしていました。正直、子どもたちにどういふ話をしたらいいか僕はわかりません。

とは言うものの、芦屋の市議会議員、僕は建設に賛成ですが、今回、反対した議員に僕は投票しました。それでも民意なのかな。

賛成とか反対とかの話は別にして、少し急過ぎないか、それだけです。さっきも皆さまおっしゃられていますように、継続した話し合いができないのでしょうか。約束してもらえないですか。それだけです。

(市長) 何度もご説明しますように、過半の議員さんのノーを現実化された以上、私としてこのまま進めます、つくりますと、今、議員の方みんなが当選したという前提ですが、6月議会に議案を上程したときに、100%近く否決される状況がわかっているのに、それを建設しますと言いつつ、皆さまに期待を持たせることのほうが、私は大きな罪だと思って、早くに判断をしました。小学校ができないとなれば、どういふものができるのか、ぜひ皆さままで考えていただきたいと申し上げています。

(市民) 今回の市長のご判断、非常につらかったと思います。こういったご意見が出ること、十分予想された上でのご判断だと思います。また、それは14名の議員の方も同じだと思います。私も議員の方から意見を聞いたときに、それぞれに非常に判断に悩まれ、結果、小学校建設に賛成を貫かれた議員の方もいらっしゃいました。だから、その上での14名の方のご意見は、尊重されることは非常に妥当なことだと考えています。

私の意見ですが、まちづくり、大学でも勉強してまいりました。まちづくりの中で小学校をつくろうとなると、一定の規模の校区に住民さんがいないと学校をつくるのは難しい。つくっても維持していくのが難しい。その中で、市としても統計をとられた結果、賛成だと市長もおっしゃっていた時期でも、正直ちょっと背伸びだなという計画であること、ここにお並びの市の方も認識された上での計画だったと思います。

数字の上でちょっと背伸びだけれども、地域の方が欲しいということで、つくろうと進めてもらいました。私は数字に基づいて判断されることは正しいと思います。今までの行政のいろいろな失敗もある中でも、数字を甘く見て突き進んだ結果、つくったのはいいけど、その後の運営

で苦慮されているケース多々あると思います。

今回、南芦屋浜地区の方は非常につらいとは思いますが、私は市長並びに市議会の判断は尊重したいというか、ご英断だったと思います。

(市民) この3月に教育のまち西宮から引っ越してきました。

私が後学のために聞きたいのは、学校を建設することは学校管理部の所管だと思いますが、その中で教育委員会も含めて、当然、学校管理部だけではなく学校教育部等の話の中でどういった話が出ていたのか、私は教育行政に携わっていますので、後学のために聞きたいんです。西宮市の教育行政に活かすためにお聞かせください。

芦屋市では、小学校建設という判断を2月26日の意見交換会の時点でもしていました。3月26日、1か月後に中止となっています。その間、教育委員会、教育行政は何をしていたのか非常に気になるところです。

市長、いじめって知っていますかね。15名の人間がいます。14名が、これが俺たちの意見だと言って1人に押しつけます。1人がかわいそうな思いをします。それがいじめなんです。わかりますでしょうか、言っていることが。私、小学校の元教師ですので、非常にこういうやり方はよくないとみんなが感じているのは、そういうことかなと思います。

ただし、議員の意見が尊重されるべきというのはわかりませんが、今まで私がいろいろな文献、地方自治法であるとか、いろんなもの調べましたけれども、申入書を市民に押しつけるのは、ほかの市では聞いたことがないので、芦屋市は大変だなと思っているのが現状です。

聞きたいことがあります。同じ教育行政として申し訳ありませんが、市長と違って教育行政は分かれていると感じています。その中で、市長が説明するよりは、せめて学校のことであれば、もうちょっと教育委員会が前に出て、こんなふうを考えました、こんなふうになりました、市の行政部局、議会から言われたので、こう展開せざるを得なかったというビジョンを示していただけると、納得できる人もいるのではないかなと思います。

後学のためにお聞かせください。西宮浜という地域があります。あそこには1小1中があります。単学級になってもそうしていくでしょう。かえって南芦屋浜地区を見てみると、1小1中がありません。将来的にどんなコミュニティをつくりどうするのか、そのあたりは非常に参考にしていきたいと思っています。勉強のために教えてください。

(教育長) 教育委員会から説明をさせていただきます。

今、ご指摘ありましたように、学校をつくるか、つまり設置するか。設置するとか管理するとか廃校にするとか、その権限は教育委員会が持っています。これは当然しかるべきものです。お互いに執行機関と言って、教育委員会と市長部局とはお互いに持つ権利があります。今回の学校を設置する判断は、当然教育委員会が判断すべきものです。

教育委員会としては、ここのまちができたとき、本来であれば分譲計画があり、人が住み出し

たら、最初にライフラインができたり、ほとんど家がなくても学校ができるのはごく普通のパターンです。

なぜそれができなかったか。平成8年にまちが竣工しました。そのとき、本当につらいことですが、阪神・淡路大震災が起きました。まず最初に芦屋市が手掛けたのは復興住宅でした。

昭和46年に、ここの埋め立てが始まりました。昭和60年に、ここのまちをどうするんだということで、小学校をつくろう、総合公園をつくろうというビジョンがありました。そして進んできました。平成7年に大きな地震があり、まちは壊滅しました。そのときに小学校をつくることはできませんでした。

まず手掛けた復興住宅は、平成10年にあゆみ橋ができ、北から町ができましたので、そこに住んだ子どもたちは潮見小学校に通えた、そんなに距離はなかった、それが始まりでした。次に、宮川小学校の建て替えをしました。次に山手小学校の建て替えをしました。次に岩園小学校の建て替えをしました。それが平成10年です。

P T Aの皆さま等の強い要望があり、平成17年度から精道小学校の建て替えをした。本来ならば、そのときにこの学校があれば私は良かったなと思います。でも、そのときに借金がたくさんあり過ぎました。このまちの小学校建設まで判断が至らなかったのは事実で、本来そのときにできていたら、潮見小学校や浜風小学校の子どもたちもそんなに減っていませんでした。残期間が15年、20年使える、合わせたら25年、30年。三条小学校は21年だったんです。子どもたちのためなら20年、30年は惜しくはないじゃないですかと堂々と言えるものだった。

しかし、それがずっと流れていった中で、教育委員会はずっと議論してきました。平成25年に内部でつukれない状況でしたから、プロジェクトチームで議論してきました。これは表に出せません。どうなるかわからない段階で、悪い言葉で言えば曖昧なことは言えなかったわけです。

ちょっとお金ができてきましたという段になって、ミズノスポーツの更新時期もかかることです。今、判断しなければ何もできなかったんです。それはなぜか、子どもたちがだんだん減っていきます。潮見小学校もだんだん減っていきます。そういう状況の中で判断をしてきました。

回答になります。教育委員会が責任を持って判断しなさい、おっしゃるとおりです。我々が判断しないと。平成25年から教育委員会の委員の皆さまと話をして行って、実際歩いてみました。東の涼風町の公園から潮見小学校まで、私が歩いて35分かかります。そういう判断の中で、そもそも教育委員会としては、新設することが望ましいという判断のもとで皆さまにも説明してきました。

しかし、負の側面がいっぱいあります。財政的な面、少子化の面。教育委員会だけでは、今のその時点では判断できなかったんです。なぜか、それはまちづくり等があります。ですので、市長に、芦屋市全体の問題として、教育委員会だけで判断することが難しい状況なので、ぜひ総合的な検討をお願いしたいと教育委員会は投げました。

そこで教育委員会からボールが市長に行った。市長が8回の検討委員会を開き、いろんな課題はあるけども建てるのが望ましいと返ってきました。そのキャッチボールの中で、私たちが投げたボールを市長が判断していただいた、こういう流れです。

ですので、国の地方教育行政の組織及び運営に関する法律における教育委員会の役割、最終的に予算を押し市長の絡み等が、教育委員会と市長部局の縦割りが多い中で、市長と教育委員会がなかなか意思の疎通ができない市もありますが、教育委員会としては市長部局と相談しながら今日まで至って、市長も苦渋の決断をされた。教育委員会としては、今までの経緯の中で断念せざるを得ないという形になった。

(市民) 意見を言おうか言うまいか迷ったんですが、皆さまの意見を言います。住民として、子ども3人をあゆみ橋から潮見小学校に通わせた親として述べさせてもらいます。非常にヒートアップしていますので、私もなるべく冷静で、公平な立場で意見を述べたいと思います。

まず、民意というお話ですので、市長も民意です、芦屋市民の民意です。まずそれが1点です。

次に、白紙撤回、要するに14名の議員の方のそういった意見はものすごく重いとは思いますが、民意を尊重するならば、議会で正々堂々と議論をしてこそ真の民主主義ではなかったかと、皆さまもそう思っているのではないかと思います。いろんな議論をして、高い、コンパクトにしようとか、いろんな新たな少子化の時代にあった学校の校舎とか学舎がくれたかもしれないです。その機会を逃してしまったかもしれないです。

皆さまの意見を聞きましたら、仮に14名の議員の方が反対したとしても、その間、我々の中で、みんなで一人一人の議員に当たって、自分らの意見とか誠意を、熱意を持っていけば、一人一人意見が変わって、14名中7名ぐらいい意見が変わるかもしれないです。そういう機会すらも逃してしまった、それも残念な感じがします。

そういう手続を踏んだ上で、最終的に反対だったらあきらめがつくんですが、釈然としない、燃焼し切っていないところが、今の会場にあるのではないかという印象を持ちました。

(市長) おっしゃるとおり議決ではない、議決という最大の重みではないかということです。議決に準ずるような、皆さまが印鑑を押した形。大半の方が私のほうにまなじりを決してと申しますか、それぐらいい決意を持ってこられたという重みは大変強いものがあります。

その中であって、まだ私はつくるんだ、やるんだと皆さまに淡い期待を持っていただいて、結果できないことがある程度わかっているのに、そういう期待を持たせることは、より大きな罪になるのではないかと思つての判断です。

そのことによって、3か月、4か月遅れることのデメリットも考えました。というのは、企業庁がある程度、どこまで待ってくれるかわかりませんが、少なくとも夏ごろまで待ってくれたらいいかなと思つていましたが、それは全くわかりません。ただ、そういう判断をするときに、皆さまの中で、あの予定地をどうしたらいいか、考えられる時間がつくれるのではないかというこ

とも判断の1つになりました。

(市民) 市長は以前に小学校建設には賛成でしたよね。これは、芦屋行政のための思想理念として賛成されたわけですよね。今現状は、学校建設に対して反対ですか、賛成ですか。できるできない関係ないです、思想理念としてです。

(市長) 必要であると思っていますけど、できない。

(市民) 必要であると、理念としては思っているわけですよね。そこに対して最大限の努力をしようという気にはならないわけですか。現状では努力しているとは思えないです。3月25日に、申入書を提出された次の日にやめようかと。これで努力しているとは思えないです。

(市長) 今までも、12月議会でも3月議会でも、議会ですっと必要だと申し上げてきていますので、努力してないことにはならないと思います。

(市民) 誰もそうは思ってないです。これだけの短い期間での議論でのひっくり返しを見ていて、誰が努力していると見るか、誰も見ないと思います。

(市民) 必ずしも即つくれと、そういうことを言ってるわけではないです。白紙撤回なら仕方ないから、もっと継続審議をすればいいわけです。なぜ建設中止ですか。

(市民) 14名の議員の申入書が重いと言われるのなら、市長にとって重いんでしょう。我々にとっては全く重くないですよ、議決でも何でもないので。

(市長) 先ほど来申し上げますように、最終判断は議会です。

(市民) 議決されてないですよ。

(市長) 議決に準ずる重さがあります。

(市民) そう考えるのは市長のお考えですよ。我々市民はそう思えないです。市長が議会と仲よくしたいがために、思いを受け入れたとしか思えないです。

(市長) 全くそんなことはありません。

(市民) 教育委員会として、涼風町から歩いたら大人の足で35分かかるから、どうしてもこのエリアに小学校が必要だと教育委員会としてはご判断をされて、進めてこられたと思います。涼風町に今後住まわれる方、子どもさんが、子どもの足だと45分かかるわけです。それを行政として看過されて、民意だとおっしゃっておられることについて1つ疑問があるんです。

ももとのプランのときに、潮見小学校と浜風小学校が隣接しているんです。これを、なぜ統廃合するんだという行政の力強い意見の中で持って行かなかったのか。まず教育委員会のプランとして統廃合した上で、どうしても南芦屋浜地区には小学校新設するべきだ、それが教育委員会としてのプランづくりの強い、先ほど強く教育長さんがおっしゃっておられたけど、なぜそれを出されなかったのか。

その上で行政として、痛みも伴うけれども、しっかりこのエリアのこともやっていかないとだめだという市長のご発言等が最初からあれば、こういった中途半端な、単学級になる云々の問題

はもう少し軽減されて我々に伝わってきたんじゃないですか。

(教育長) この地区において、学校はどうやったらできるんだろうかという思いで、8月の教育委員会も議論してきました。教育委員全員としては、方向性で断念ということですが、子どもたちの環境は変わるわけではありません。

(市民) なってしまったことを別に責を問うと言ってるのではなくて、統廃合すべき状況にあるわけですね。隣接した小学校区が2つもあるから。であれば統廃合した上で、もう一度プランを教育委員会として検討されたらどうなのかなと。

市長は、今は反対の意見ですからできないと思います。でも、教育委員会としては、じくじたる思いの中で、もう一度民意を問うという姿勢でプランを早急にまとめていただいて、我々に提出していただくことはできないでしょうか。

(教育長) 実は3校並立、2校を統合してつくる、つukらない等、同じ表にしまして議論はしてきました。それを踏まえて、こういう形がベストだろうということで教育委員会は進めてきました。ですから、その議論自身をしなかったわけではございません。

(市民) であるならば理解しづらいです。

私たちから見たら、どのエリアの人にもいい顔をして、結局結果が伴わなかった現実があるのかなと思っていますが、そういうことではないということですね。

私は統廃合した上で、どうしてもこちらには学校をつくるという、もともとの行政としての使命があるんだから、つくりますよとやられてもよかったんじゃないかなと。そうすれば費用の軽減にもつながりますし、統合された学区でも、潮見から新しい小学校に児童を抜くと半減化するとなっています。そういう不安の部分も統合した上で、こういう形で運営していきますという投げかけがなぜなかったのか。そのデメリットのほうが大きかったんですか。

(教育長) 統廃合という議論をする中で、私たちが気にしたのは、芦屋の子どもたちの幼稚園は大体40%から45%が公立です。小学校は90%、中学校は60%です。芦屋の学校として、コミュニティの核として地域に小学校があることは非常に大きな役割もありますし、そういう中において、子どもは当然このまちにも小学校があるものだ。

そういう中で、逆に、今ある学校をどのような形で存続できるのか。また地域の子どもの増えないまでも減らないまちに重きを置きまして、それで3校という形を判断してまいったわけです。

(市民) であるならば、ここで議論しても時間が経つばかりです。基本的に、小学校区があれば芦屋浜と隣接してあることに対して、統廃合を含めてもう一度再検討していただくと。もちろん地元の方の住民の方の反対とかいろんな問題あるかもしれませんが。それは教育委員会として、市長は民意を持って捉まえたけれども、教育委員会としては再検討するポジションじゃないですか。そこだけ何とかお願いできないですか。

(教育長) 浜風小学校、潮見小学校のあり方等は、今、南浜小学校の建設中止をもってすぐに統廃合

するとか、そういう考えは持っておりません。地域の中で学校をいかに残していくか、教育委員会としては1番に考えています。

(市民) 我々のほうには小学校は来ないと、そういう結論になっているわけですね。

(教育長) そういうことです。

(市民) それで行政としていいんですか。行政の責任、何かしておられるんですか。先ほどもおっしゃってられました、多数の意見で決めることなんでしょうか。

(市民) すみません、今の教育長の発言で。先日、意見交換会のときに、教育委員会の部長が、あゆみ橋は登校用の橋ではないと、だから危険なんですよと言われていました。危険なんですよ。それはどうなんだ。子どもの安全と言っていましたよね。

(教育長) そもそも最初にこの学校を建設しようというのは、当然子どもたちの安全面とか、そういうものを否定しているものではありません。私もずっと立っていましたら、晴れた日はさほど違和感を感じないですが、雨の日とか、夜暗くなったとき、いろんな課題があることは当然私たちも認識しています。

ですので、教育委員会としては学校が建設中止という段階において、次は何ができるんだろうか。それは学校ができたとしても、建設までの期間があることですから重要な課題として、4月10日以降に、教育委員会の中で、また事務局として対応を考えていきたいと考えています。

(市民) いずれにしても平行線なので、先のことを踏まえて、選挙後に、この場をもう一度持つというところで結論は出ませんか。

(市長) こちらから、その辺のまちづくりについて、皆さまのお声を聞くのは大歓迎です。

(市民) 将来本当に不安なんです、このまま廃れて。

(市長) あの土地をどういう形で利用するか、皆さまにもぜひお考えいただきたいと思ひますし、一緒に考えたい。

(市民) あの土地を買うつもりはあるんですか。

(市長) どういう使い方があるかが前提です。

(市民) 企業庁が持っている場所です。それに対して、芦屋市として主体的に何かしようとするんだったら、あの土地を20数億円かけて買うということですね。

(市長) いろんな方法があると思います。全てを企業庁へ返したわけではありませんので、どういう形ができるのかは、まだ我々の手にあると思っています。今後企業庁と相談をしながら、そして皆さまがまちづくりを活性化するために、あの土地をどう利用するか、行政と皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。

(市民) 小学校用地だからこそ企業庁はあの場所を確保してきた。小学校を建てないということになれば、企業庁は別の形の活用を当然考えるはずですよ。それに対して、芦屋市はどこまで言える権限があるんですか。買えば権限が出るでしょう。でも、買わなければ権限は出ないです。それで

もって、どうやってまちづくりをしようと言えるんですか。買うということですね。

(市長) 何の当てもないのに買うことはありません。しかし、こういうことのために、南芦屋浜地区の活性化のために、こういう使い方があると皆さまから建設的なご意見が出てきたら、行政も一緒になって企業庁に持ちかけます。

(市民) 30億円ですよ。小学校用地で建てるならば、西宮市の事例があったと聞いていますが、5億円、6億円で買えると聞いています。それに対して、30億円近くの金がかかる土地を買えるんですか。それも前提にして議論ができるということでしょうか。

(市長) ここで限定的なことは申し上げられません、相手があることですから。

(市民) だとするならば、最終的にもう一回白紙に戻した段階で、議論を継続するべきだと思います。

(市民) 最後に1つだけ聞きたいんですが、岡本さん、山中さん、福岡さん。本当に子どものことを考えた上での結論ですか、どうなんですか。それははっきり言えないですか。

(市長) 当然子どもたちのことも考えながら、このまちをどうしたらいいか。しかし、そのためには議会の議決も得ないとできないという話は、よくご理解いただきたいと思います。

(市民) はい、わかりました。それを言いましたよね。

先ほど、あなたの足で歩いて35分と言われました。子どもの足で大体45分でしょう。雨の日はちょっとがたがたするかもしれない、晴れたら大丈夫でしょう。じゃあ、あなたは6年間それをやれますか。毎朝通って。それができた上で、子どもの足で45分でしょうというせりふをもう一度言ってください。それができますか。

(市長) 通学路の子どもの安全確保の方法など、いろんな方法があると思います。

(市民) そんな人たちが子どものことを考えていると言われても、納得できないというのが意見です。

(司会) ありがとうございます。

本日の説明会につきましては、これで閉会とさせていただきます。本日は長い時間、御意見いただきまして、ありがとうございました。